

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 山田 拓郎

所属 都市政策課

<p><u>1 派遣期間</u></p> <p>平成23年 9月 1日 ~ 平成23年 9月10日</p>
<p><u>2 派遣先及び主な活動場所</u></p> <p>岩手県下閉伊郡山田町 山田町役場</p>
<p><u>3 支援活動の内容及び活動の状況</u></p> <p>建設課に配属され、仮設住宅入居者への支援物資の配布および配布に必要な調整・管理業務を担当した。</p> <p>8月末を以って町内の全ての避難所が閉鎖となり、仮設住宅への移住が進んだ状態であったため、町で配布の管理をしていた衣類、家電などの物資配布を新たに必要とする戸数は、震災当初に比べかなり少なくなっていた。また、財団法人から支援物資として石油ストーブが配布されはじめた時期であった。</p> <p>また、9月11日に県知事・県議・町議の選挙を控えていたため、会場設営に携わった。</p>
<p><u>4 活動を通じて感じたこと</u></p> <p>支援物資については衣類や生活家電等、必要性が感じられるものを配布した一方で、町の武道場やホールを埋め尽くすほどの在庫（食料品を含む）を未だに抱えており、物資受け入れと需要/供給のバランスの難しさを感じた。</p>
<p><u>5 支援活動から見た被災状況など</u></p> <p>被災後ちょうど半年が経過し、津波により倒壊し流された建物や車などの瓦礫はほとんどが取り除かれ、何も無いような状態になっていた。</p> <p>町内ではコンビニエンスストアやスーパー、日用品店、飲食店など、仮設店舗や災害で無事だった部分の再利用等の形ではあるが、商業活動が再開しており、時間の経過と共に復興に向かっていることを実感できた。</p> <p>仮設住宅において、物資配布の際に不在の家の分を隣や向かいの人が預かってくれたり、都合のつく人が近隣の家の分をまとめて受け取りに来るなど、住人同士の相互扶助の意識があり、助けあい・協働の精神が復興に向けて大変な中、個々の負担を減らすために大切な事であると感じられた。</p>